

会員のコーナー

チバニアン（「千葉」の時代）

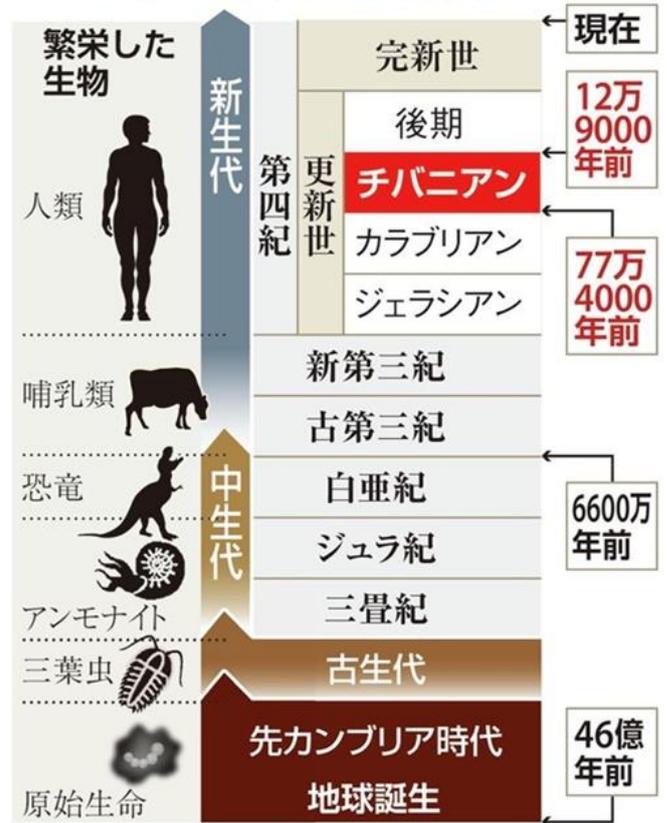
地球の歴史を示す時代の1つ、今まで「更新世中期」と呼ばれていた時代に、「チバニアン（ラテン語で千葉の時代）」という名前が付くことが、今年1月17日に決まりました。

地球の地質年代は現在 117 に区分されており、大きな生態系の変化や気候の変動、地磁気の逆転等で境が決められており、それぞれの変化が認められる箇所を世界で1か所だけ、国際地質科学連合（IUGS）が地質年代の境界ポイント（GSSP：国際境界模式層断面とポイント）として認定するのだそうです。そして、現在の地磁気の方角になった最後の变化（77万4千年前）を表すGSSPとして千葉県市原市の「地磁気逆転を表す地層」が認定され、それから12万9千年前までの時代を「チバニアン」と呼ぶことが決まりました。

このニュースにより、「千葉」の名前が国際的に認識されたことは、非常に誇らしい思いがあります。ちなみに2018年10月には国の天然記念物への指定も受けています。

しかし、チバニアンという地層が学術研究的にすごいのは、1000年という、地球の歴史で言えば一瞬の時間が、2m程の厚さで堆積しており、地磁気逆転の前、中、後が、非常に広い幅で記録されていることです。1000年に相当する地層の堆積の厚さは、通常は10cm程の厚さしかなく、決定のライバルだったイタリアの地層でも20cm程とのことです。

地球の歴史と地質年代



厚さ2mで研究のために抜くコアが2cmとすると、地磁気逆転によって何が起こったか10年単位で地球の気候変動の様子がわかります。次の地磁気逆転も近いと言われている中で、起きる事象が詳細に推測できることは、今後の研究・解析が非常に楽しみです。

ところが、人類の活動による温暖化という気候変動はすでに始まっており、しかも短期間でより大きな変化として現れています。今後図らずも引き起こるであろう千葉県内の数多の災害、その対応に「ちば測協」の会員として、使命感を持って立ち向かわなければならないと常々感じています。

(サン・ジオテック株式会社 金久保 豊)